

ねらい

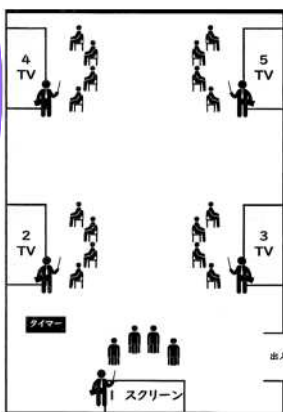
自身の学びを発信し、幼小の教員が対話を重ねながら、合同の研究主題である「創造力の育成」を共通言語として実践を言語化することで、互いの教育観を共有し、教育の質を高めていく。

ポイント

幼小教員が自ら設定したテーマで自身の学びを発表し、それに対して意見を交流する対話型セッションを行う。

実践内容

幼稚園から3・4・5歳児の実践事例を発表した。小学校教員との対話を通して、様々な学びと発見があった。



発表グループ形態図



下図は、3歳児の事例の発表から幼小教員の対話を記録・分析したものである。

「安心感と他者との関係性の中で発揮される創造力」

小学校教師: 子ども同士が心地よい関わりができること、共感し、認め合える関係性は小学校でも目指しています。

幼稚園教師: どの発達、学年においても安心感を感じられる環境は大事なですね。3歳児は初めて集団生活をする子どもがほとんど。どの学年よりも、丁寧に環境を整えることを大切にしています。

小学校教師: 確かに学年によって違いますね。発達に応じた、目の前の子どもに応じた、安心感が得られる環境がありますね。

幼稚園教師: 1年生と3歳児は新しい世界に期待と緊張があります。子どもが「やってみよう」と思って、動き出そうとする瞬間を逃さず声をかけるには、子どもを丁寧にみるのが大切です。

小学校教師: 最初は身近な大人との関係、そこから同年代の子ども、クラスへと広がり、学年が上がるにつれてその割合に変化はあるけれど、特に学年始まりの4月は『安心感』を得られる学級になることを大切に過ごすようにしています。

どの学年でも安心感を得られる環境構成をすることが大事。特に、初めての集団生活となる3歳児や1年生にとってはより丁寧な配慮が求められる。期待や不安な中で、自ら環境に働きかけながらそれを獲得していこうとする姿は創造力を働かせている姿である。新たな環境の中で獲得した創造力が、今後の創造力の土台となっていくのだ。

成果と課題

- 子どもが安心して主体的に学ぶための環境の大切さを共有した。
- 幼稚園では子どもの“やりたい”や“その子なりのめあて”に応じて環境を再構成している。小学校でも子どもと対話しながらめあてや解決方法を自分で考えられるように授業を構成している。どちらも子どもの主体的な学びを大切にしていることが確認できた。
- 小学校教員は、幼稚園教育で大切にしている環境構成の考え方に触れ、“学びたい”と思える環境づくりの重要性を実感した。
- 子どもの主体的な姿を支える環境構成の在り方について、幼小の教師が互いの実践を見合い、対話を通して学び合う研修の場を今後も継続して取り組んでいきたい。